共闘で秋季闘争へ
第七回 福岡県総評大会終る

福岡総評の第七回定期大会は二十九日正午から二日間福岡市教育会館で代議員約二百五十名が出席して開催した。議長団に久保田武巳（炭労）嶋本勝子（国鉄）水口明（岡野バルブ）の三氏を選び不当弾圧反対、土屋知事のリコールなど今年の運動方針を可決し、新しい活動へと乗出すこととなつた。

小宮社会党県連会長、田原、河野両代議士、山本参議らのメッセージを受け赤嶺県総評議長の挨拶で開会した。

第一日目は岩井事務局次長より昨年度の経過報告があり、これに対して国鉄、炭労、全電通、福教組全日自労の代議員より (1)春闘のさい総評の情宣活動は不足してはいなかつたか (2)土屋知事リコールに対して社会党側と県総評の足並みは揃つていないのではないか (3)労働者と農民の提携はどう進んでいるか (4)共闘態勢は十分か (6)こんごの組織防衛はどうするかなどの論議が交された。

このあと豊瀬事務局長から今年度の運動方針案を提案、説明して午後五時二十分、第一日目を終つた。

運動方針に四本柱

第二日目、午前九時半開会、前日に引続いて運動方針案を審議、質疑応答が活ぱつに交された。

今年度方針の大要は

(1)生活を守る闘い…これには生産性向上運動に反対して生活と雇用を守る。週四〇時間を目標として当面すべての組合が四十二時制への到達闘争を起す。など最低賃金制、減税、社会保障などの問題。

(2)民主々義と諸権利を守る闘い。

(3)平和と独立を守る闘い。

(4)地方自治と教育文化を守る闘い

(5)政治活動の強化。

などが取上げられている。

一方、闘争体制の強化も打出し、職場闘争、地域共闘、組織拡大強化。中小企業労働者支援対策強化などが大きく取上げられた。

とくに未加盟単産対策としては、組織としては中央総評には参加しているが地方総評に参加していないところがある。これには支部組織と話合つて加入に努力する。

また当面の秋季闘争については、これに結集させる第一段階として共闘委員会を設け、中央の方針に基いて闘いを推進するなど議案書に盛られている考えは諒解された。

リコール運動へ

特別議題としての知事リコール問題では、炭労としては代表者会議で鵜崎氏をきめ、総評大会でハッキリ決定するということになつており、各単産も努力していたが、社会党では稲富氏を推しているもようであり、党との調整を待たぬ前に鵜崎氏を決定するのはこんごのリコール運動推進の上でプラスにならない。こういうことから九月中に社会党としても県下二十万の協力がなければならないので総評の考えを十分理解してもらつて調整することになつた。

この他地方選挙の件、規約一部改正、予決算を討議、つぎの役員を選んで第七回福岡県総評大会の幕を閉じた。

議長 赤嶺利文（全日通）
副〃 佐々木栄（西鉄）
〃 藤嶋千代一（岡野パ）
〃 矢上正直（国鉄）
事務局長 豊瀬禎一（福教組）
〃次長 江崎潤（炭労）
〃 丸山又三（全逓）

久保田氏ら20名
第四回世界労組大会 派遣運動進む

第四回世界労組大会は、きたる十月三日から十二日間東ドイツのライプチヒでひらかれるが、この大会に日本労働組合の代表を送ろうと、総評、産別、中立系組合などで運動がすすめられている。

総評傘下では国鉄、全日自労、全印総連、紙パ労連、中立の全造船および産別会議などが代表を送ることをきめ、すでに人選も終り、代表一人五〇—七〇万円の派遣資金カンパに全力をあげている。このほか総評本部、全国セメントも代表派遣をきめており、また全損保、炭労、合化労連、私鉄総連などは傘下から代表が選ばれれば単産代表として認める方針をきめ、炭労、私鉄では代表も決定している。

八月二十二日現在、決定した代表はつぎの人々であるが、大会開催までには二十人をこえると予想される。

▽団長＝細井宗一（国鉄本部中執）▽副団長＝池ノ谷吉春（紙パ労連委員）亀野進（全造船組織部長）▽事務局長＝高橋武夫（全印総連書記長）▽団員＝北川義行（総評国際部長）相田一夫（国鉄新潟地本委員長）近藤一雄（全日自労新潟支部長）金山一男（全日自労神奈川県支部高津分会長）久保田武巳（炭労・三井三池副組合長）西島羽米一（炭労・三井美唄委員長）内山光雄（私鉄総連・北鉄労組委員長）牛垣又彦（全印総連中執）吉川滋（世界労連日本出版協会事務局長）金子健太（産別・全日本金属常任執委）。産別からは金子氏のほか二名を派遣するうち一名は副団長。

また、以上のほか九月十五日から十日間プラーグ（チェコ）でおこなわれる婦人ゼミナール（世界労連主催）に出席する猿渡文江（産別・都委協小豆沢病院副委員長）栗田貞子（全国税東京婦人部長）の二氏も世界労組大会に出席する予定である。（KNA）

闘いの山十一月
総評・秋季闘争方針練る

総評は大会決定の線にしたがい、十九日常任幹事会、二十日戦術会議、二十一日ふたたび常任幹事会をひらいて細目を調整し、秋季・年末闘争方針を決定した。正式には二十六日の拡大幹事会議にはかつた上で発表されるが〃十月闘争〃は大分ずれるもようである。その骨子はつぎの通り。

一、まず現在の段階は攻勢の時期ではないとみて、九月中は秋季年末闘争の準備期間としている。具体的には、米価値上げ、社会保障問題などの国民運動に重点をおき、社会党議員団に先頭に立つよう要請する。

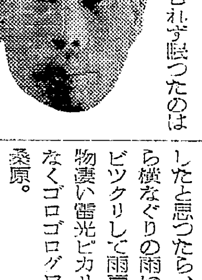
一、十月中旬を目標にして国鉄（処分反対）全逓（配分闘争）全電通（要員問題）などの公労協関係労組が実力行使を行い、これに鉄鋼、全造船、全日通（以上賃上げ）炭労（保安闘争と退職金闘争）の民間労組が歩調を合せて第一波闘争を実施する。官公労の賃金要求闘争もこの時期に行う。

一、秋季・年末闘争の最大のヤマを十一月初旬から同月末までとし、十一月上旬から民間労組の年末一時金要求のための実力行使をつぎつぎに行う。（KNA）

真夏の夜の夢

大雨のせいか今年の夏はしのぎよかつたようだが、残暑まだきびしいものがありますこの暑気ヌキにすごしい夢を求めました。

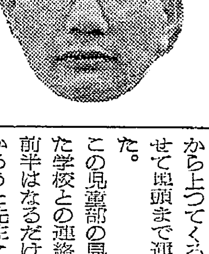
桑原桑原！
伊牟田春雄



暑苦しくてねむれず眠つたのは十一時過ぎていた。ビニール製の床、天井、張り囲わされた部屋に何時の間にか案内され、ビニール製扇風機を据え、ビニール製安楽椅子に横たわり一服してテレビを見ていたら、急に冷え込み寒気がしたと思つたら、開け放しの窓から横なぐりの雨に打たれていた。突端ビツクリして雨戸を締めた。物凄い雷光ピカリ！ 一刻の間もなくゴロゴログワリー、アア桑原桑原。（天道分会長）

廿世紀の怪談
出海渓也

広ばくたる砂漠



真ツ昼間
だあれもいない
焼けつくような太陽が砂々に吸いこまれてゆく
とつぜん
一大音響とともに
天を衝く巨大なキノコがそこに生えていた
よろめき右往左往する蟻たちの残ガイがそこにあつた。
—ネバダにて
（映文協事務局長）

三川・港務を見学
敷島のよい子一八二名

四山支部敷島児童部では盆前の十一日、約一八二名が野田分会長、垣田児童部長の引率で三川鉱・港務所の見学を行つた。

この夏休みにはぜひ、お父さんや兄さんたちが働いている現場をみたいという願いがかなつたものだが、分会の方としても大いに生きた社会科の勉強になるから尽力した結果、これが実現したもの。

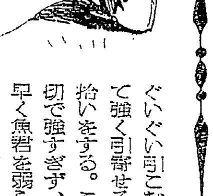
三川鉱では坑外施設をつぶさに見学し、執行部の案内で見学を行つたが、案内役の労働部のおじさんたちに矢つぎ早の質問を浴びせてさかんな研究熱をみせていた。また四年生以上になるとさすがに上級生らしく、一々説明をききながらメモをとるという熱心さで感心させられた。つぎの港務所は炭鉱とガラリと職場が趣を異にしているので新しい興味が湧いたようだつた。とくにみんなが感心していたのは三川坑から上つてくる石炭をベルトにのせて岸頭まで運ぶ送炭ベルトだつた。

この児童部の見学は、さきに行つた学校との連絡協議会で夏休みの前半はなるだけ社会見学などがよかろうと先生たちの方からの希望でもあり、また子供たちも望んでいたものである。夏休みの後半いよいよ学習に励むことになり、よい子たちの第二学期がもう目の前にきている。

時のことば
世界労連

世界労連は一九四五年、全世界の労働者の国際的統一組織として生まれた。しかし一九四七年、マーシャルプランの可否をめぐつてイギリス労働組合会議、アメリカ産業別労働組合などの有力組合が脱退して分裂した。しかしそれにもかかわらず、その後、加盟組合が増え、現在組合員八千五百万を有する国際労組組織である。

随想
釣り
宮浦 仕繰 村上秀雄



秋の稲の取入れ時、丁度忙しい最中、小道脇の堀で釣人が釣に余念がなかつた。丁度、そこを通りかかつた百姓のおじさん「人の気も知らないで、こちらは猫の手も借りたい時に……」と口の中でぶつぶついいつつ、釣師の上まで来たら、丁度程良くつれている時なので、百姓のおじさん、つい、つりこまれ浮子の動きを見つつ、一時間位過してしまつた。猫の手でも借りたい時でも一時間を夢のように過ぎるのであるから、釣る本人は、一日が夢のように過ぎる。毎日を機械や人の騒音で神経を糸のようにすりへらす勤人に取つては日曜日の釣こそ、百薬に優る薬である。

釣も剣道と同じで、名人になるには、相当修業しないと、一人前にならない。魚は人間より知能が低いので時々、ちよつかいを出す。免許皆伝でない人間は、それに引つかかつてえさを取られるのが関の山。私のように名人になると、一寸したちよつかいには手を出さない。今が一番頃合と思う時「ゆうゆう」と一本合せると魚君、地獄行きの第一関所に引つかかる。でも敵もさるもの、大もの程わが陣地とぐいぐい引こむ。素人は嬉び過ぎて強く引寄せるので、軽傷位で命拾いをする。ここの駆引が一番大切で強すぎず、弱すぎず、しかも早く魚君を弱らせることが大切である。魚君に負けると、鉄条網の中に引入れられ、もう負である。何拾円かの浮子もついに、わが手には帰つてこない。

夜釣も又楽しい事で、夏の暑い夜などは、汗をびつしよりかいて寝て居るより、海風を受けながら可愛い鈴の音に合せて大物をぐいぐい釣上げる時の楽しさは何ともいえないあじがする。でもいやな時もある。部落のラジオの音が消え、電燈のあかりが右、左というぐあいに一つずつ消え、やがて地上は真の暗やみ。空を見上げると墨を流した様にどす黒く、やがて糸の様な小雨が降り出し、なまぐさい風がどこからとなく吹いて柳の細枝が「村上様」となでて行く時はつい「お母様」と呼びたくなる。そういう時の用意に免許皆伝の私は、焼酎正宗を用意して行つているので、目を開けずに、二合位「ぐつ」と一息に飲んで、五分位気を沈めていると、もうお岩おばけでも、有馬猫でも、鍋島猫でもおそろしい事はない。天下太平である。

釣の初歩の人にいいたい事は、人間の恋を釣ると同様に、用意周到、まず経験者に良く尋ねる。よかつたら二、三回一緒につれて行つてもらう。相手を良く見る。性質、太さ等によつて釣糸や針を用意し、釣は根気のない人は早くやめた方が良い。

姿見
悩みの念佛

うちの前の棟に例の創価学会に入信しているおぢさんがあります。元来、頑なところのある方ですが元鉱員だつたそうで、今では停年退職されて息子さんが働らいておられます。

まだ入信されて永くないようです。ギコチない口調で声高らかに、しかも暑いさなかなので窓を開ツ放しときているので、嫌でも耳に入り神経をイラ立せますことに仏壇にまだ用のない私達夫婦には、その念仏が滑稽に、また憂うつにも聞え益々耳障りでなりません。

それに朝昼晩と三回も長々とやられるのですからたまつたものではありません。

最近その家で家庭争議でも起つたのか何か声高かに、わめきちらす声が聞えましたが丁度夜十一時突然〃南無妙法蓮華経〃とむしろ怒気を含んだ念仏が静寂を破つて爆発したのです。

主人は一番方であり寝苦しい晩でしたので容易に眠れず悶々としていた時、この声で益々睡眠を妨げられ、遂に起き上り海岸まで出て行つて散歩して来る始末。

まだ習い初めのお勤めとて他人は三〇分でやるものを一時間余りかゝる有様で、うんざりさせられます。

それに朝、私が起き炊事を始める頃既に朝のお勤めときておりますので、主人も眠れぬまゝ朝刊は来ていないので所在なさに昨日の夕刊を再読しているといつた具合で、その日一日事故がなければよいがと気が気ではありませんでした。

信仰もよいが集団生活の一員であることをお忘れなく。（四山・一主婦）

中国見たまま
優遇の炭鉱労働者
＝酒井政治局員より＝

熊本県代表として訪中している酒井政治局員からの第一便は前号でお知らせしましたが、つづいて左記の便りが編集部へもたらされました。なお酒井氏は来る九月七日に帰宅することになつています。

只今北京で頑張つています。昨日（八月七日）中国総工会へ行きまして代表者と話合いました。代表者の中には昨年大牟田荒尾を訪れて来られた人達もほとんど出席しており炭鉱労組の地方部長であつた申志賢さんは今度総工会の副主席に選ばれ炭鉱労働者の意気を大いに発揚されていました。炭鉱で感じることですが日本では炭鉱労働者の地位というものは組合は強いという評価はされておりますが、労働の価値としての炭鉱労働者のウエイトは余り高いといえない様です。私たちが泊つている新きよ飯店（ホテル）は北京でも一流の大ホテルですが正面玄関を入つた所の壁面には炭鉱労働者の姿を彫つてありどこへ行つても労働者の絵とか芸術品の人物には大ていは炭鉱労働者が題材となり、一昨日行つた故宮の六十余カ国より贈られたものには炭鉱労働者の姿を形ち造つたものが非常に多いのです。社会主義の国での炭鉱労働者の地位表現の一面といえましょうか。非常に感に打れるものがあります。

「私達は日本の労働者やその他沢山の人々と交流をしてほんとうに仲良くしたいと思つておりますが今度私達は日本の総評大会に代表者を送つて大いに話合いをしたい気持で準備をしておりました。ところが岸内閣が中国に対して友好的でないため（この事はアメリカに於ける岸発言として随所で聴きました）旅券の許可を日本政府がくれませんでした残念です。然しこのことは日本国民の意志でなく岸内閣の意志であると確信致しております。日中友好を政府がつぶそうとしても両国の国民の意志と与論は絶対につぶれるものではありません」との発言がありました吾々は聞いておつてはずかしい思いが致しました。岸内閣の頑迷さが日本国民に対して信頼を失つていませんし、また日中友好は如何なる困難に会おうとも達成しなければならないと確信しております。私たちも多いに励まなくてはならないと思つております。

日程が非常につまつておりますのでお便り出来かねますが帰国後詳細に今回の訪中で見聞した新中国の有様は報告したいと思います。なお、李徳全女史（中国紅十字会々長）にも面接し色々と話合いをしました。他に教育、文化、農業等々相当精力をつくして調査を致しておりますから多量の御報告が出来るものと思います。